

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

「『生きる』を繋ぐ」

足立区立 第六中学校

三年 呉本 恵実

税金とは、国や都道府県、市区町村を維持し、私たちの暮らしを守るためのお金です。税金には様々な種類があります。私の父は個人事業をされていて主に個人事業税・所得税・都民税・区民税・固定資産税・自動車税などを納めています。数多くの税があり、「そんなに納めなければいけないの。」と思う方もいると思います。私もそれを聞いたときにとっても驚きました。「なぜ税金はあるのだろう。」と、頭によぎりました。しかし、税金は納めるばかりではないのです。

私たち中学生が通っている学校や教材、机、黒板などは税金のおかげであるのです。他にも道路や福祉、介護など様々なところで私たちの暮らしに税金が関わっているのです。

もし、税金が無ければ今通っている中学校も通えていないし、何も学べていません。私たちの生活に常にある信号も道路も命に関わる医療や福祉なども、税がなければ今、こうして暮らせていることも不可能だと考えられます。税が存在していなかったら国も私たちの生活も維持ができないのです。

これらのことから、当たり前前に生活の中にある社会資本の整備や公共サービスの提供は、国民生活の環境を保持するためにあり、私たちが安全に・安心に豊かに暮らしていくために

なくてはならないものです。それが、「税金」なのです。

一方で現在、問題視されている点もあります。それが、少子高齢化問題です。高齢者の方々が増加する一方で、出生率が減少して、子供が少なくなっています。なぜ子供を出産しない人が増加しているのでしょうか。それには理由があるので

一つ目は、経済的な不安です。妊娠や出産にともなう医療費、保育所等の費用、将来の教育費に不安を抱える人が多くいることを、内閣府の調査グラフによって分かりました。

二つ目は、社会的な不安です。妊娠についての職場の理解や、保育所等が充実できているのか、子供がのびのびと育つことができる社会環境なのか、など社会的に不安を抱える人もいることが厚生労働省の統計調査により分かりました。このままでは、働く人が減り税金も減るでしょう。さらには、高齢者の方々にかかる介護費や医療費は増える一方です。つまり、高齢者の方々を支える世代が少なくなり一人あたりの負担が大きくなるのです。

これらを解決するためには、妊娠・出産に対する支援、保育所を増やす、保育サービスの充実、働き方の多様化、経済的支援の充実などが主に必要なのではないかと考えました。大切なのは子育てする人が安心できる環境でなければなりません。これらのことから、国内の問題を少しでも最小化するためには税金をより有効活用していくことが大切だと思います。世界はリレーでできているのです。「生きる」ために私たちはバトンを繋ぎ、支え合うことが大切です。